

| | | | |
|--|--|--|-----------------|
| 科目名：歯科保健指導論Ⅱ (Oral Health Guidance Theory Ⅱ) 履修年次/時期：2年次 後期 授業形態：講義・演習 主担当教員：小堀陽子（実務経験 歯科衛生士 28 年：実務経験から対象者が口腔の健康を守るために必要な知識・技術を学べるよう授業を行っていく。） 担当教員：関端麻美、伊ヶ崎理佳 | | 必 | 2 単位 (90 時間) |
| 学修目的 | 健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持し、増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケアの基本となる知識、技術および態度を修得する。 CP:2~6 に関連する 科目 No. S2C11H15 | | |
| この科目が目的としている DP | 1. 医療専門職としての倫理観を有する。 | (1) 生命の尊厳を基盤とし、医療における倫理観を有する。 (2) 医療専門職として礼節を重んじ品格を備える。 | |
| | 2. 医療専門職として健康問題の発見と課題に取り組む能力を有する。 | (1) 教養と考える力を身につけ、主体的に課題解決に取り組む能力を有する。 (2) 専門的知識や技術を修得し、人びとの健康に寄与できる能力を有する。 (3) 社会の動向に関心をもち、学び続ける力を有する。 | ○ ◎ ○ |
| | 3. 口腔の健康支援を通し、全身の健康を守る高度な専門的能力を有する。 | (1) 多様な価値観を持った人びとを理解し、人間関係を築く能力を有する。 (2) 優しさに溢れる歯科衛生士として地域社会に貢献する能力を有する。 (3) 歯科衛生士としての役割と責任を自覚し、多職種と協働できる能力を有する。 | ○ ○ ○ |
| | ◎：この講義・演習・実習と最も関連がある DP ○：この講義・演習・実習と関連がある DP | | |
| 到達目標 | ①各ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。 ②ライフステージまたは療養ステージに応じて、対象者の日常生活習慣行動と生活環境を把握できる。 ③対象者の日常生活自立度(ADL)について把握できる。 ④全身的な健康状態について把握できる。 ⑤歯・口腔の疾患および異常の観察と評価ができる。 ⑥適切な指標を用いて口腔の状況を診査し、評価できる。 ⑦対象者に対する適切な対話法ができる。 ⑧各ライフステージ別の口腔衛生指導ができる。 ⑨特別な配慮を要する、妊産婦・全身疾患患者・障害児者・要介護者に対する口腔清掃の指導ができる。 ⑩多職種との連携について説明できる。 | | |
| 授業概要 | 歯科保健指導論Ⅰで学んだことを基礎として、個人や集団に対して、健康な口腔を保つために必要な保健行動が定着できるように、専門的立場から支援する能力を養う。 | | |
| 評価方法 | 本試験 80% レポート提出、ルーブリック、実習参加度、実技など 20%の総合評価 試験に対するフィードバックは掲示で行う。 | | |
| 予習・復習時間 | 【予習】 1.1 時間 【復習】 1.1 時間 | | |
| 教科書 | 『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会編，医歯薬出版 | | |
| 参考書 | 『歯科衛生学シリーズ 保健生態学』 全国歯科衛生士教育協議会編，医歯薬出版 『歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学』 『歯科衛生士講座 小児歯科学』 永末書店 『歯科衛生士講座 高齢者歯科学』 永末書店 | | |
| アドバイザー 連絡先 | 関端 麻美 : 月～金 16:20～17:00 3号館 2階研究室 sekibata@kdu.ac.jp 小堀 陽子 : 月～金 16:20～17:00 3号館 2階研究室 kobori@kdu.ac.jp | | |

伊ヶ崎 理佳 : 火~金 16:20~17:00 3号館2階研究室 ikazaki@kdu.ac.jp

* 不在時はメールにて連絡をください.

| 実施回 | 授業計画 | 予習・復習・キーワード | 担当 |
|-------------------------------------|--|---|----------------|
| 1・2 A 班 / B 班 / | 対象別指導① 妊産婦 ①妊産婦の一般的特徴、口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。 ②妊産婦におけるプロフェッショナルケアとセルフケアの目標を説明できる。 ③母体の健康状態が胎児へおよぼす影響について説明できる。 | 〔予習〕 310-320 口腔衛生学および歯科予防処置論の知識も活用しつつ、教科書を読み、要点をまとめる。 〔復習〕 授業のプリント、教科書を確認し、授業内容について整理する。 〔キーワード〕 妊婦産歯科健康診査、歯の形成期、早産、低体重児出産、妊娠期、授乳期、胎児の口腔の発達 | 講義 ○関端 |
| 3・4 A 班 / B 班 / | 対象別指導② 乳幼児 ①乳児期の一般的特徴、口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。 ②乳幼児におけるプロフェッショナルケアとセルフケアの目標を説明できる。 ③口腔に影響を及ぼす生活習慣の把握ができる。 | 〔予習〕 320-338 250-263（保健生態学） 小児歯科学および口腔衛生学の知識を整理しつつ、教科書を読んでおく。 〔復習〕 授業内容について整理し、理解を深める。 〔キーワード〕 ライフステージ、発育・発達、摂食行動、反射運動、保護者の保健行動 | 講義 ○小堀 |
| 5・6 A 班 / B 班 / | 対象別指導③ 学齢期 ①学齢期の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。 ②学齢期におけるプロフェッショナルケアとセルフケアの目標を説明できる。 ③生活習慣の把握ができる。 ④食生活を把握し、指導ができる。 ⑤口腔内状況を把握し、口腔衛生指導ができる。 | 〔予習〕 338-344 〔復習〕 授業内容について整理し、理解を深める。 〔キーワード〕 一般的特徴、口腔の特徴、発達課題、う蝕、歯周病、セルフケア、プロフェッショナルケア、歯科保健行動、学校歯科健康診断、栄養、咀嚼 | 講義 ○伊ヶ崎 |
| 7・8 A 班 / | 対象別指導④ 青年期 ①青年期の一般的特徴、口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。 ②青年期におけるプロフェッショナルケアとセルフケアの目標を説明できる。 | 〔予習〕 151-153、345-350 〔復習〕 授業内容について整理し、理解を深める。 | 講義 ○伊ヶ崎 |

| | | | |
|-------------------------------|---|--|------------|
| B 班 / | ③食生活の特徴と栄養の問題点を説明できる。 ④口臭について説明できる。 | 〔キーワード〕 摂食行動、味覚、栄養の問題点、ブレスロー、アイデンティティ、セルフケア、プロフェッショナルケア、口臭 | |
| 9・10 A 班 / B 班 / | 対象別指導⑤ 成人期 ①成人期の一般的特徴および口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。 ②成人期におけるプロフェッショナルケアとセルフケアの目標を説明できる。 ③成人期の歯科衛生介入を説明できる。 ④非感染性疾患(NCDs)の種類と特徴および口腔との関連を説明できる。 | 〔予習〕 350-359、293-297 口腔衛生学および歯科予防処置論の知識も活用しつつ、教科書を読み、要点をまとめる。 〔復習〕 授業の内容について要点を整理しておくこと。 〔キーワード〕 二次う蝕、歯根面う蝕、歯周炎、周術期専門的口腔衛生処置、周術期口腔機能管理、NCDs、かかりつけ歯科医、セルフケア、プロフェッショナルケア | 講義 ○関端 |
| 11・12 A 班 / B 班 / | 対象別指導⑥ 喫煙者(禁煙支援) ①喫煙による口腔疾患への影響を説明できる。 ②喫煙状態のアセスメントについて説明できる。 ③各禁煙ステージにおける禁煙支援のポイントを説明できる。 | 〔予習〕 297-305 〔復習〕 授業内容について整理し、理解を深める。 〔キーワード〕 喫煙と歯周病、喫煙状況のアセスメント、禁煙ステージ、禁煙支援のポイント | 講義 ○小堀 |
| 13・14 A 班 / B 班 / | 対象別指導⑦ 老年期① ①老年期の一般的特徴、口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。 ②老年期におけるプロフェッショナルケアとセルフケアの目標を説明できる。 ③老年期の身体的変化に伴う食生活の特徴と口腔への影響について理解する。 ④高齢者の保健・医療・福祉対策の経緯を説明できる | 〔予習〕 360-366 299-308(保健生態学) 〔復習〕 授業内容について整理し、理解を深める。 〔キーワード〕 加齢、基礎疾患、身体機能の変化、口腔機能、食生活、栄養状態、ADL、フレイル、介護保険制度 | 講義 ○伊ヶ崎 |
| 15・16 A 班 / | 対象別指導⑧ 老年期②(要介護高齢者)/口腔衛生管理実習① ①要介護高齢者の一般的特徴および口腔の特徴を説明できる。 | 〔予習〕 23-27、127-130、375-382 成人歯科学Ⅴ(高齢者歯科、先端医療)の授業資料および教科書を熟読し、授 | 講義 ○関端 |

| | | | |
|--|---|---|----------------------------------|
| <p>B 班 /</p> | <p>②要介護高齢者におけるプロフェッショナルケアとセルフケアの目標を説明できる。 ③要介護高齢者の全身状態、生活機能、歯・口腔状態の把握方法について説明できる。 ④要介護高齢者に対する口腔衛生管理の意義・効果について説明できる。 ⑤口腔衛生管理に関する清掃用具を説明できる。 ⑥要介護高齢者に対する口腔衛生管理の一連の流れと注意点について理解する。</p> | <p>業の内容について整理しておく。 〔復習〕 教科書・プリントから、今回の授業内容について整理し、理解を深める。 〔キーワード〕 ADL、要介護高齢者、障害高齢者の日常生活自立度判定基準、改訂 BDR 指標、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準、認知機能の評価方法、口腔健康管理、口腔衛生管理、口腔機能管理、低栄養、気道感染予防、摂食嚥下障害、居宅療養管理指導、多職種連携</p> | |
| <p>17・18 A 班 / B 班 /</p> | <p>口腔衛生管理実習② ①要介護高齢者(シミュレータ)のアセスメントを行う。 ②要介護高齢者に対して口腔衛生管理を行うための歯科衛生介入計画を立案できる。 ③口腔衛生管理に関する清掃用具の特徴を説明できる。 ④要介護高齢者に対する口腔衛生管理の一連の流れと注意点について理解する。</p> | <p>〔予習〕 23-27、268-289、378-379 要介護高齢者の口腔衛生管理に必要なアセスメント項目の目的と方法、判定。 〔復習〕 授業内容について整理し、理解を深める。 〔キーワード〕 アセスメント、口腔ケア、スポンジブラシ、義歯用ブラシ、粘膜用ブラシ、口腔湿潤剤、器質的口腔ケア、機能的口腔ケア、専門的口腔ケア</p> | <p>演習 ○関端 小堀 伊ヶ崎</p> |
| <p>19・20 A 班 / B 班 /</p> | <p>対象別指導⑨ 〈矯正患者；口腔状態に応じた指導〉 ①矯正患者への口腔衛生管理を理解できる。 ②口腔習癖が不正咬合に与える影響について説明できる。 ③矯正患者の歯科保健指導を実施できる。 ④MFT の指導法を説明できる</p> | <p>〔予習〕 矯正歯科学の授業資料と教科書を熟読して、理解したことを整理しておくこと。 〔復習〕 歯科矯正学の授業で学修したテキスト、プリントやノートも併用しながら、学習した内容を整理する。 〔キーワード〕 矯正患者へのアプローチ、リスクファクターの把握、ブラークコントロール、口腔衛生管理、MFT</p> | <p>講義 ○小堀</p> |
| <p>21・22 A 班</p> | <p>対象別指導⑩ 〈障害児者；配慮を有する者への指導〉 ①障害児者の一般的特徴、口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。</p> | <p>〔予習〕 382-387 障害者歯科の授業資料と教科書を熟</p> | <p>講義 ○小堀</p> |

| | | | |
|------------------------------|--|--|--|
| <p>/</p> <p>B 班</p> <p>/</p> | <p>②障害児者におけるプロフェッショナルケアとセルフケアの目標を説明できる。</p> <p>③社会的背景と障害について理解できる。</p> <p>④主な障害と歯科的特性を説明できる。</p> | <p>読んで、理解したことを整理しておくこと。</p> <p>〔復習〕</p> <p>障害者歯科の授業で学修したテキスト、プリントやノートも併用しながら、学習した内容を整理する。障害別の口腔の特徴と歯科保健指導の要点について確認すること。</p> <p>〔キーワード〕</p> <p>国際生活機能分類、介護者、セルフケア、プロフェッショナルケア</p> | |
|------------------------------|--|--|--|